

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する。 【普通科】県東部の拠点校として、中高6年間の探究型学習を通じてキャリア意識を醸成し、主体的に地域をけん引して社会の発展に寄与する人材を育成する。 【機械土木科】ものづくりの基礎・基本を重視した学びを通して、工業の専門的な知識・技術を身に付け、時代に即した対応力を持つ技術者を育成する。 【ビジネス科】商品開発や地域貢献活動を通して、よりよい地域社会の在り方について自ら考え行動し、社会に貢献できる人材を育成する。
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○学習意欲が高く、健全な生活習慣と規律、明確な目標意識、チャレンジングな精神を重視し向上心を持って学び続ける生徒を求めます。 ○普通科では、主体的に進路選択に取り組むことができる生徒を求めます。 ○機械土木科では将来、機械や土木の技術者として社会に貢献したいという明確な目標を持つ生徒を求めます。 ○ビジネス科では将来、商業技術や起業精神を生かして社会に貢献したいという明確な目標を持つ生徒を求めます。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○生徒一人ひとりの能力と進路希望に応じた教育を提供し、社会で活躍できる人材育成を目指した教育課程を編成し、実施します。 ○普通科では、幅広い進路に対応できる、バランスの取れた科目を配置し、希望進路に合わせた科目選択を可能にします。習熟度別学習や少数人選択科目を編成し、きめ細やかな指導を行います。また、ICTを活用した質の高い学習、地域と世界を結びつけるグローバルな視点の育成など、探究学習により、生徒の能力を最大限に引き出し、思考力・表現力を身に付ける教育を行います。 ○機械土木科・ビジネス科では、デジタル化に対応した専門技術を習得し、職業観・労働観を育成する専門教育科目を編成します。産業界と連携した実践的な授業、課題研究、資格取得、コンテストへの挑戦を通して、即戦力となる人材を育成する教育課程を編成します。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・C層以上の生徒が増加しているが、一方では、1年生、2年生のD層もまだ高い割合で占められていることから、減少に向けて今後力を入れて取り組んでいく必要がある。 ・授業外学習のシームレス化の取組に力を入れていけば、学力向上が見込まれる。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	・地域協働学習の取組が定着してきている。 ・総合的な探究の時間、課題研究の発表会を合同で開催し、成果を共有している取組は大変有意義なことである。 ・安芸高校生若き力は、安芸市の活性化には必要不可欠な力となっている。
【チーム学校】 評価 【 A 】	・不祥事防止委員会を多く開催していることは評価できる。 ・ICTを活用した業務改善は、今まで行っていた業務の内容を考慮の上「しない、やらない」ことの決定する勇気も必要である。 ・地域も協力する中で生徒の夢が実現できるように教職員、生徒ともに頑張ることを期待している。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
					中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	
学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加(普・専) ・1年(R7.4) 38.3%→(R7.11) 60.0% ・2年(R6.4) 50.0%→(R7.11) 80.0% D3層の減少とC層以上の増加 ②授業外学習時間の増加 授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒割合 ・1年 25.8%→24.7%(15% ↓) 2年 57.5%→50.8%(15% ↓) ほとんど学習をしない生徒の割合の減少 ③将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年 88.3%→88.2%(90% ↑) 2年89.2%→90.5%(90% ↑) 将来のための勉強をしている生徒の増加	○プロジェクトチームを活用した授業改善の取組 ・「めあて・思弁表・振り返り」を徹底した授業改善に取り組む ○デジタルツールを活用し個別最適な学びに取り組む ・「CasioClassPad」(晋)デジタルドリル「すらら」(専)の積極的な活用 ○授業と授業外学習のシームレス化に取り組む ・週末課題や長休休業中の課題に取り組ませる ○課外活動の充実 補習・資格取得・競技会等の充実	○C層以上の生徒の割合(普・専) 2年(R7.4) 64.9% ・授業デザインプロジェクト年間計画の作成および全教職員へ周知 ②「ほとんどしない」と回答した生徒の割合 ・1年(23.5%→40.4%)、2年(22.3%→26.1%) ・学習支援員による放課後補習(～8月):78時間のべ259名実施 ・3年生の放課後補習実施、土曜日補習実施 ③1年93.8%、2年92.0%、3年92.1% 測量士補(2名合格)、計算技術検定3級合格(73%)、 基礎図検合格(14%)、英検3級→2級合格率(41%)	・授業デザインプロジェクトに係る公開参観授業週間(11月)および校内研修(12月)の実施 ・1年生の科目選択に係る個別面談の充実 ・補習の継続実施(学習支援員による公務員・大学進学・基礎力定着補習、放課後及び土曜補習) ・技術競技大会への参加(産業教育工業・商業・家庭で出場予定) ・「ClassPad」「すらら」の活用継続 ・資格試験(英検、漢検、測量士他)	○C層以上の生徒(普・専) ・1年(R7.4) 38.3%→(R7.11)46.3% ・2年(R6.4) 50.0%→(R7.11)70.0% ※目標値には達していないが、第1回より増加した。 ○将来のための勉強をしている生徒 ・1年86.4%、2年92.2% ※県アリアより ○授業デザインプロジェクトに係る公開授業、校内研修により生徒が主体となる授業づくりについて理解が深まった。 ○3年生が国立公立に13名が合格(12月22日現在) ・共通テスト後、離開私立、国立公立にチャレンジする生徒18名 ○各種検定、競技会上級、最優秀賞を取得できた。 ○授業外学習で「ほとんどしない」と回答した生徒の割合 ・1年(21.0%→35.8%)、2年(25.0%→32.6%) ※県アリアより ※ほとんどしない生徒が増加し対策が必要である。	○家庭学習の課題の提供及び学習時間を増加させるための啓発活動 ○継続してC層以上の増加に取り組む ○生徒が主体となる授業づくりの取組 ○進路実現へ継続して取り組む(進路指導の充実)
					・遠足、ホームマッチ、清桜祭(文化祭)を実施 ・ボランティア活動 生徒延べ106名参加 ・観光列車おもてなし、夏休み子ども教室、韓国高校生との交流	・地域貢献活動 ・星神社参道整備(11月)、桜市(11月)、観光列車おもてなし(毎月) ・ものメッセおよびものづくりフェスタへ講師や補助として参加 ・修学旅行(2年生) ・ブラッシュアップセミナー、スーツ着こなしセミナー	○学校アンケート結果 ・学校行事の充実82.7%、生徒会が充実68.0%、ボランティア、地域貢献に協力82.7% ○地域住民と協働した取組の充実 ・高い甲子園、高校生マルシェ、きさらぎ市、桜市、観光列車のおもてなし、星神社の参道整備等 ※AKV活動で公安委員会から感謝状授与 ○生徒が個々の得意分野で多方面で活躍 ・人権作文、税の作文、書道、吹奏楽、測量士補、エナジードサミット優秀賞、運動部が全国大会出場等
社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○生徒会活動の充実 ・学校評価アンケート(生徒) 「学校行事が充実」81.5%(85% ↑) 「生徒会が充実」71.9%(85% ↑) 「ボランティア・地域貢献に協力」83.8%(85% ↑) ・生徒会が色々な場面で活躍してくれた。(韓国高校生との交流、開校記念式典、文化祭、防災活動、フロンテック、AKB活動等) ○地域貢献活動への参加	○学校行事、AKV活動、地域貢献活動を通して社会人として必要な能力を育成 ・学校行事(遠足、文化祭、ホームマッチ、修学旅行等)の充実 ・AKV活動や高い甲子園へのボランティア参加 ・観光列車のおもてなし、桜市の開催、星神社の参道整備等地域貢献活動への積極的な参加	・遠足、ホームマッチ、清桜祭(文化祭)を実施 ・ボランティア活動 生徒延べ106名参加 ・観光列車おもてなし、夏休み子ども教室、韓国高校生との交流	・地域貢献活動 ・星神社参道整備(11月)、桜市(11月)、観光列車おもてなし(毎月) ・ものメッセおよびものづくりフェスタへ講師や補助として参加 ・修学旅行(2年生) ・ブラッシュアップセミナー、スーツ着こなしセミナー	○学校アンケート結果 ・学校行事の充実82.7%、生徒会が充実68.0%、ボランティア、地域貢献に協力82.7% ○地域住民と協働した取組の充実 ・高い甲子園、高校生マルシェ、きさらぎ市、桜市、観光列車のおもてなし、星神社の参道整備等 ※AKV活動で公安委員会から感謝状授与 ○生徒が個々の得意分野で多方面で活躍 ・人権作文、税の作文、書道、吹奏楽、測量士補、エナジードサミット優秀賞、運動部が全国大会出場等	○生徒が得意分野で活躍できる場の設定 ○地域活動と進路実現をリンクさせる(進路実現につなげる)
					○安芸市をフィールドとした「総合的な探究学習」やボランティア活動等に取り組む ・安芸市役所、安芸市商工会、高知大学、高知工科大学等との連携 ○桜市、高い甲子園等の企画運営を行う ○安芸市や本町商店街と連携し実施 ○専門科(工業科・商業科)の取組を中学校や地域に情報発信を行う	・地元の病院を中心にならぬあひ看護体験(3か所、5名参加) ・県オリジナルアンケート問19肯定的回答68.3% ・安芸市や地域との連携によるふれあい体験学習(6回) ・桜市の開催(6月) ・産業教育PRイベント出展	・ものメッセおよび企業見学(専門科全学年・普通科1年生、中学3年生参加) ・外部講師による講義 溶接技術向上実習の実施(高等技術学校に依頼) ・高知大学学生および海外留学生との交流による地域の魅力再発見(10/18予定) ・高知県工業会による企業との交流会 ・女性防災プロジェクト 地域と連携した防災学習へ女性防災士として参加(11/24予定)
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○社会参画活動(ものメッセ、安芸市の地域課題解決学習、高知県工業会、女性防災プロジェクト等)へ積極的な参加(普・専) ・県オリジナルアンケート問19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」肯定的回答79.6%(80% ↑) ・地域・関係機関との連携回数(15回 ↑)	○安芸市をフィールドとした「総合的な探究学習」やボランティア活動等に取り組む ・安芸市役所、安芸市商工会、高知大学、高知工科大学等との連携 ○桜市、高い甲子園等の企画運営を行う ○安芸市や本町商店街と連携し実施 ○専門科(工業科・商業科)の取組を中学校や地域に情報発信を行う	・地元(の病院)を中心にならぬあひ看護体験(3か所、5名参加) ・県オリジナルアンケート問19肯定的回答68.3% ・安芸市や地域との連携によるふれあい体験学習(6回) ・桜市の開催(6月) ・産業教育PRイベント出展	・ものメッセおよび企業見学(専門科全学年・普通科1年生、中学3年生参加) ・外部講師による講義 溶接技術向上実習の実施(高等技術学校に依頼) ・高知大学学生および海外留学生との交流による地域の魅力再発見(10/18予定) ・高知県工業会による企業との交流会 ・女性防災プロジェクト 地域と連携した防災学習へ女性防災士として参加(11/24予定)	○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある ・肯定的回答76.7% ○総探や専門科の地域と協働した取組が定着し地域からの期待も大きい (桜市、高い甲子園、きさらぎ市、星神社参道整備等) ○「地域や社会を良くするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」回答74.3%(1～3年) ○地域・関係機関との連携回数:25回以上	○継続して地域貢献活動へ参加 ○海外の高校生等とのオンライン交流
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○授業デザインプロジェクトを核とした教科横断的学習の取組 ○DXハイスクールにおいて、普通科と専門科の協働による探究学習の推進及び深化 ・普通科・専門科の連携(年5回) ○外部人材の効果的な活用 ・総合的な探究の時間において外部講師を定期的に招聘し言語活動や情報活用能力を育成する(年3回) ・専門科、磯部組と連携し、DXハイスクールを推進(年3回)	○推進リーダーを中心とし言語活動、情報活用能力を育成するための、公開授業を設定(年2回) ・地元大学や地元企業との連携、仮想空間の作成 ・DXを活用した防災の取組、校外での成果発表・成果を地域へ還元する・理工系人材の育成 ○課題研究発表会、総探発表会の同日開催	・授業デザインプロジェクトをふまえた公開授業実施 ・地元企業の担当者による授業実施 ・DXを活用した各科での取組(データ取得、分析・結合) ・総探における外部講師招聘の取り組み(高知大学・共育で、関西学院大学・総探の進め方、磯部組等計6回)	・授業デザインプロジェクトによる授業見学および事後の研修会実施(12/19予定) ・DXを活用した普通科と専門科との連携および民間企業との連携継続(安芸防災マップの制作) ・桜市の開催(高知市内) ・総合的な探究の時間および課題研究発表会の実施(計6回)	・授業デザインプロジェクト講師による授業見学および事後の研修会実施(12/19予定) ・DXを活用した普通科と専門科との連携および民間企業との連携継続(安芸防災マップの制作) ・桜市の開催(高知市内) ・総合的な探究の時間および課題研究発表会の実施(計6回)	○授業デザインプロジェクト公開授業2回実施 ○DXハイスクールにおいて、普通科と工業科、地元企業、徳島大学との協働による探究活動が深化した。(防災デジタルコンテツク完成及び成果発表) ○総探や外部人材を効果的に活用できた。(高知大、徳島大、関西学院大、磯部組、地域関係者との連携25回以上) ○課題研究、総探の初校内発表会の開催 ○総探の取組で文部科学大臣賞受賞

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】				
					中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】					
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○国立及び離開私立大学の進学 ○生徒の資質・能力の育成 ○部活動の活性化 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化・特色化	○普通科および専門科の魅力化計画とPR活動の強化 ・国立及び離開私立大学の進学率32.4% (30% ↑) ・教員の指導力向上 ・生徒が主体となる授業を実践する教員 80%以上 ・学校評価アンケート(生徒) 「部活動が充実」79.9%(85% ↑) ・関係機関との連携(高知大、安芸市役所、商工会議所、本町商店街、磯部組等) ・生徒数確保に向けた特色化および外部へのアピール	・中高一貫校の強みを活かした中高交流授業 ・土曜補習及び3年次放課後補習の計画的な実施 ・授業デザインプロジェクト事業 ・総合的な探究の時間に大学や地域企業と連携 ・地域連携による商品開発等 ・運動部、文化部、ゼロハンカー大会、コンクリート甲子園、エナジードサミットの全国大会出場を目指す ・インスタグラムでの発信	・公開参観授業により、保護者および地域へ公開 ・中学・高校の交流による授業改善(互いの授業参観) ・部活動:入部率(5月現在) 85.3% ・部活動:全国大会出場(9月現在) 5部(陸上・体操・吹奏楽・放送・ワープロ)/四国大会出場(9月現在) 6部(陸上・ソフトテニス・体操・水泳・吹奏楽・ワープロ) ・公式SNSの積極活用、HPリニューアル ・県中東部の中学校説明会の実施(14校) ・清桜祭(文化祭)の実施、仮装行列の実施 ・地域企業(磯部組)や大学(徳島大学)との連携 ・ビジネス科による販売実習等、学外での教育活動 ・コンクリート甲子園参加	・第2回学校運営協議会の実施 ・学校評価アンケート実施・分析・次年度の計画 ・3年生全員の進路実現に向けた取組(補習・面接指導) ・コンクリート甲子園(3年連続本選出場) ・ゼロハンカー大会(予定) ・地域と連携協働した活動(かがり火、きさらぎ市、高い甲子園運営ボランティア)	○学校評価アンケート(生徒) 「部活動が充実」71.9%→79.1% 「学校生活が充実」91.1%→86.7% ・運動部、文化部活動、専門科で四国大会や全国大会に出場 ・コンクリート甲子園、石種甲子園への出場・ゼロハンカーの全国大会に初出場 ・エナジードサミット3年連続全国大会出場(優秀賞受賞) ○生徒が主体となる授業実践に取り組んでいる78.8% ○3年生が国立公立に13名が合格(12月22日現在) ・共通テスト後、離開私立、国立公立にチャレンジする生徒18名 ○地域連携、大学(高知大、徳島大、関西学院大)との連携の深化 ○総探の「共育で」班の取組が評価され「濱田が参りました」で知事が学校へ来校した。(1月14日) ○HP(定期的な更新)、Instagram(フォロワー1060人超え)で情報発信	○中高交流授業の継続 ○積極的に安芸高校の魅力を保険者地域等へ情報発信 ○継続して工業科の魅力化の取組とPR活動				
					★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・不祥事根絶のための校内ルールの徹底 ・あらゆる場での注意喚起や情報提供等の実施 ・不注意事案の件、法令遵守、ハラスメントについての理解や意識100% ○校内研修の実施回数 年間10回実施 ○不祥事防止委員会の実施回数 年間7回実施	○不祥事防止の徹底 ・6月教育実習に合わせてパワハラ・セクハラ防止強化月間 ・注意喚起と情報共有の徹底 ・日頃のコミュニケーション	・職員朝礼や職員会議での注意喚起や情報共有の実施 ・不祥事防止月間の実施(8月) ・不祥事防止校内研修(4回) ・SCによる研修会の実施 ・不祥事防止委員会の定期実施(4回)	・不祥事防止委員会の実施 ・校内研修(不祥事防止等) ・注意喚起や情報提供等の継続実施 ・定期的な校内の点検(カメラ設置の有無等) ・掃除や整理整頓の徹底	○不祥事の根絶に取り組んだ ・不祥事防止委員会8回、研修等を10回実施 ・日々の注意喚起や声かけ ・管理職による校内の定期点検 ・不注意事案0件、法令遵守、ハラスメントについての理解や意識100%	○継続して不祥事根絶に取り組む ○職員全体で目くぼせ、気配りを行い小さな変化に気付ける職場づくり ○教職員に学校経営への参画意識も持たせる(できた成果を認め合う職員集団づくり)
					★長時間勤務の解消 ○組織としての業務改善に取り組む	○休暇が取りやすい環境整備 ○ICTを活用した業務改善の推進	○業務改善の取組 ・目標設定シートに係る面談等を活用し、職員の置かれている状況を把握し、日常的に声掛け ・衛生委員会を毎月実施し、長時間勤務者の把握と改善・助言 ・閉庁日、ノー残業デーを月1の設定	・衛生委員会の実施(月1回) ・学習支援員や部活動支援員を最大限に活用 ・定期的な「保健便り」の発行等、生徒・教職員への健康諸問題への啓蒙活動の実施 ・学校閉庁日4日 ・ノー残業デーを月1回設定実施 ・医師面談の実施	・学校行事の精選による勤務体系の適正化(時間外勤務の抑制) ・事務部及び生徒支援部による校内施設・設備の点検・整備 ・労働安全に係る衛生委員会の定期開催と周知 ・効果的なICT活用	○教職員の心身の状況把握に努めた ・男女休室等の整備の完了 ・目標設定シートに係る面談等を活用し、職員の置かれている心身の状況が把握できた。 ・衛生委員会を毎月実施し、長時間勤務者の把握と改善・助言ができた。 ・閉庁日、ノー残業デーの実施	○やりがいを持って仕事に従事できる教職員の育成 ○外部指導員、外部人材の効果的な活用 ○継続して休暇が取りやすい環境整備に取り組む ○ICTを活用した業務改善の継続